



## 「一視同仁」を貫き、質の向上へ 今後10年を見通す年に

社会医療法人 同仁会

理事長 齊藤和則

あけまして  
おめでとうございませう

今年はセラチア院内感染事故から20年となります。職員の数が増え、それを経験していない世代となり、昨年10月、1998年の前倒産とともに節目の振り返りをしました。二つの経験をいつまでも伝えていくことと標準的な診療や民医連としての管理運営になっているかを常に確認しながら毎日の仕事を進めたいと思います。

### 温暖化対策は 焦眉の課題

一昨年に続き昨年も全国で自然災害が相次ぎました。豪雨は温暖化の原因とされ、河川の氾濫で家屋や農業の被害とともに、長野県では新幹線基地が水没しました。温暖化は大地震や

核兵器、原発とともに人類と地球環境の存続を左右します。大阪湾沿いも大雨の甚大な被害が予想されていて再生可能エネルギーへの転換と温暖化対策に消極的な政治を変えなければなりません。

### 75歳以上の医療費 負担増を止めよう

昨年の同仁会報新年号で憲法改定議論をさせない活動をと訴えました。7月の参院選挙でギリギリではありませんが改憲派議員が3分の2を割りました。憲法、特に9条を守ることを市民と改憲に反対する野党と一緒に選挙に臨んだ成果です。憲法以外でも消費税、雇用、教育、医療、社会保障など国民の

切実な問題の改善を訴えてみながんばりました。しかし政府は消費税を社会保障に使うと言ってきたにもかかわらず、昨年10%に増税後75歳以上の診療窓口負担を1割から2割へすると言い出しました。医療従事者と国民の共同でこの動きを止めねばなりません。

### 民医連綱領を 今こそ学ぼう

大学の英語入試に民間業者のテストを導入するとの政府、文科省の計画が問題になりました。きっかけは文科大臣の身の丈発言でした。この身の丈とは受験機会が親の経済力で決まることです。受験生、高校と大学の教員が声を上げ、国民とマスコミにも反対が広がり、文科大臣は延期と言わざるをえませんでした。教育の機会均等という憲法に盛り込まれた原則に反すること、受験生や学校当事者のみならず多くの人が賛同したことが、政府と文科省の方針を変えさせた力です。

日本では教育に関して、大学入試問題以外にも過度な競争教育、不十分な歴史教育、道徳の教科化、大学助成金削減や軍事研究奨励といった政策が続いています。私たちはこういった教育環境から社会に出てきました。昨年からは民医連綱領の学習を、ブックレットを用いて進めています。明治以後は富国強兵政策の中で医療はどつであつたか、第二次世界大戦の後には公的保険制度や医療技術が発展する中で民医連がどう対応してきたか、たまたかってきたかが述べられています。差別しない、排除しないを貫き、痛恨の経営問題や医療事故を質の向上のための教訓とし、今後の10年を見通す一年にしましょう。



綱領ブックレット学習  
スタート集会



第19回みみはらグループ  
医療介護安全大会

